

魅力あるまちづくり若者会議（第9回）会議録
「大プレゼン大会」

日 時 平成27年3月23日（月）午後6時から
場 所 中野市役所31号会議室
参加者 コーディネーター 東京成徳大学 三枝准教授
会員 12人
高校生会員 3人
傍聴者 14人（一般市民2人、議員1人、市職員11人）
主催者 2人（事務局）
報道 3社

1 会長あいさつ

これより「魅力あるまちづくり若者会議」大プレゼン大会を始めさせていただきます。

本日は公私ともに忙しい中、池田市長をはじめ大勢の方々のご出席を頂きまして、誠にありがとうございます。また、私達、若者会議のメンバーに対しこのような素敵なプレゼンの機会を与えてくださった事務局の皆様、ありがとうございます。

私達は、これからチームごとに分かれ、発表をする訳ですが、各チームとも、公の会議ではもちろん、プライベートでも集まり話し合いを進めて参りました。今、緊張のピークを迎えつつあり、マイクを持っている手もブルブル震えておりますが、今までの成果を上手くご披露できたらと思っております。

本日は、よろしく申し上げます。

さて、ここで、本会議のコーディネーターであります三枝先生に進行をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

2 コーディネーターあいさつ

こんばんは。ご紹介頂きました東京成徳大学の三枝と申します。今日はお忙しい所、夕刻にも関わらず、たくさんの方に集まって頂いて、若い人達のプレゼンを聴いて頂けるということで、深く感謝しております。

この会議は、中野という地域でどんな将来像を描いて行けばいいのかと考えたとき、誰が描くかと言うと、やはり担い手となる若い人達に、考え、議論してもらうことが必要だと。これは当然と言えば当然なのですが、これから実際にこの中野に住んで、働いて、色々と考えて行かなければならない若い人達に考えてもらうために集まっていたものです。当初は10人でスタートしたのですが、高校生も入ってくれて今では15人になり、活発な議論をして今日まで来ました。

第6回の会議で中野の将来についてメンバーの考えを発表してもらい、様々な意見が出ました。その内容を大別して、地元の主力産業である農業について考える「農業体験分科会」、住んでいる人、市外の人でも楽しめる「イベント分科会」、まちなかを賑やかにするためにまちなかのことを考える「まちづくり分科会」、若い人が意欲を持って元気良く活動でき、そのような人にどう情報発信しネットワーク化するかなど、まちづくりの基本となる人づくりについて考える「人づくり・情報分科会」の4つのチームを編

成しました。

メンバーにお願いしたのは、抽象的で総論的な話にどうしてもなりがちですが、あえて、自分達の考えを踏み込んで書いてみようということです。逆に具体的であるほど否定的なご意見も頂けると思いましたので、そのようにお願いしてあります。

個別具体的な話も盛り込まれていると思いますので、そういう趣旨で聴いて頂ければと思っております。ご批判も含めて、色々な意見を賜りたいと考えております。

これから最初のチームの発表をしてもらいますが、その前に、事務局の方から会議の経緯をご説明します。

3 事務局

魅力あるまちづくり若者会議の開催経過資料の説明。

4 農業体験分科会（チーム農業）プレゼンテーション

「中野市の魅力発信・みんなで食べよう中野市の食」と題して発表させていただきます。

今、注目する中野市の財産、それは農業です。中野市は、夜間瀬川の扇状地として水はけの良い土地であり、寒暖の差があるため、果樹栽培に適しています。また、長野盆地の北端にあたる「延徳田んぼ」と呼ばれる田園風景が広がっています。エノキ茸、ぶなしめじ、ぶどう、りんご、アスパラガスなどの全国有数な生産量があります。

中野市は農産物を栽培するには、とても良い環境であると考えています。しかし、農業が盛んな中野市であっても高齢化問題、後継者・農業生産者不足、燃料・資材等の高騰などの数々な問題により農業をやめ、農地を縮小する農家が増え、荒廃地が年々増加しているのが現状です。

農業をどう活用するのか、私達が考えたのが、一つ目、荒廃地を利用した市民農園の提供、二つ目、観光を利用した農業体験、三つ目、若者農業研修制度です。市民農園の提供の1ですが、ターゲットは中野市民対象で、年間契約を考えています。荒廃地を利用し中野市民に貸し出す、中野市農業委員会に荒廃地所有者が登録を行う、農地の賃貸契約は利用者と中野市農業委員会で行う、登録農地は抜根済みの更地であること、畑冠設備のある農地は水代として契約金に乗せできる、畑の管理は契約者が行い、野菜、花の栽培ができ、樹木は植えないこと、契約者は第三者へ貸出は禁止とします。

市民農園の提供、その2ですが、中野市民及びその周辺地域の方々を対象とし、主に未経験者が対象となります。まずは、野菜づくりの講習会を開催、野菜づくりに自信のない方や興味のある方々を集めて講習会を開催する、年間カリキュラムを作成し、講習会は有料で開催を行う、講習会費は講習者の賃金や資材に充てる、市民農園1、2を含めて、収穫した野菜を販売できる販売所、ルートを提供する。

市民農園の課題ですが、中野市農業委員会の協力、農家の方々の協力、農地の確保、駐車場の確保、立地条件、賃貸料金選定、広報の方法及びその費用、講習会を行う指導者及びスタッフの確保があげられます。

次に観光を利用した農業体験ですが、対象者として、長野県外者、首都圏の家族、女性、大学生など、団体の集客としては、首都圏の学校、社会見学の一環として農業体験や、また中野市内の学校にも農業体験を行っていただく。

観光を利用した農業体験は、収穫体験ではなく、農作業を体験していただきます。内容としては、体

験作物の収穫までの作業行程の説明、種まき体験、そば、大豆、野沢菜。袋かけ体験、ぶどう、なし、洋ナシ、もも。葉摘み体験、リンゴ。花摘み、受粉体験、リンゴ、なし。田植え、稲刈り体験、きのこ工場の見学、味噌醤油づくり体験、漬物体験などがあげられます。

農業体験の年間スケジュールとしては、1月から12月までこのような形で考えてみました。

農業体験をした後には、中野市内並びに近郊の温泉施設に宿泊、市内観光施設を見学、中山晋平・高野辰之記念館を見学、日本土人形資料館で土人形の絵付け体験、6月の時期には一本木公園のバラまつりを見学、市内の酒蔵、味噌、醤油店を見学、農産物直売所において買い物、中野市内の飲食店のご協力のもと地元の食材を利用した食事を提供、その他の中野市の魅力を感じて頂ける場所へ観光をして頂きます。農業体験をした特典として、体験して頂いた農産物を収穫時期に、郵送でプレゼントするということを提案します。

次に、観光を利用した農業体験の課題ですが、まずは農家の協力、観光料金の選定、広報の方法及び広報に伴う費用、旅行代理店との契約等、講習会を行う指導者及びスタッフの確保、中野市飲食店、商業施設等の協力、管理運営をどのようにするかなどがあげられました。

次に、若者農業研修制度ですが、対象者は、就職活動中の学生、仕事として何をして良いか悩んでいる方々、就農を目的に中野市に移住を考えている方をあげました。

内容としては、週末、長期休みを利用した研修から最大2年間の長期研修まで対応します。研修先は研修者へ労働賃金を支払う、中野市は研修先へ補助金を支給する、宿泊については中野市が補助する、現在中野市で行っている支援制度をもう一度見直し、活用して頂けるように広報活動をしていくなどがあがりました。

次に、研修終了後は、中野市に移住して農業に従事する方に限り、補助を支給する、就職祝い金の支給、農地の貸し出しに伴う補助、住宅への補助金、農業資材、機械に対する補助などなど、既に中野市にある支援制度を利用する。

次に、若者農業研修制度の課題ですが、農家研修先の協力、中野市農協の協力、研修先・宿泊先の確保、労働賃金の支払い、冬期間の研修について、広報の方法及び広報に伴う費用等があげられます。

結果、まず、荒廃地を利用した市民農園の提供ですが、荒廃地の有効利用に繋がり、将来的に趣味で作った農産物の販売ルートを確保することで、第二種兼業農家の増加に繋がり、新しい農業産業が生まれると考えます。

観光を利用した農業体験ですが、中野市の農業を体験した結果、その農産物を目的に「また食べたい！また行きたい！中野市」が生まれ、農業と観光を組み合わせることで新たな中野市を発見できます。

最後の若者農業研修制度の結果ですが、就農しやすい環境を整えることで農業生産者の増加に繋がり中野市への定住者が増えます。

この農業の最終目的としては、中野市の「食」を地域内外に発信して中野市の魅力を感じていただくことで、「中野市に行こう！」となり、中野市産業の活性化に繋がると考えます。

以上で、発表を終了させていただきます。ありがとうございました。

コーディネーター

どうもありがとうございました。市民農園、観光と農業、研修制度の三つの提案をして貰い、さらに具体的なところまで踏み込んで頂いて、かつ、課題もきちんと整理して頂いて素晴らしかったと思いま

す。

次に、まちづくりチームの発表をお願いします。

5 まちづくり分科会（まちづくりチーム）プレゼンテーション

「まちナカノふるさと・街の真ん中にもうひとつの自分の故郷（へや）」と題しまして、これよりプレゼンをさせていただきます。

早速ですが、まちなかで若者向けのシェアハウスをやります。私達はこれを提案します。なぜ若者向けのシェアハウスなのか、私達がどのような話し合いを進めてきたのか、ここで少し説明させていただきますと思います。

まちづくりの拠点となる場所は、どこであるのか考えた時に、思いついたのが、まちなか、中心市街地でした。そこで私達は中心市街地に着目することにしました。中野市のまちなかのことをどう思うか、チーム内でディスカッションした時に、まず出たのが「遊ぶ場所がない」でした。また「人が少ない、来ない」という意見も出ました。私達は何と、負の連鎖を発見しました。人が来ないということは、お店の売り上げが増えない、そして、お店が閉店していく。まさに負のスパイラル状態に気が付いたのです。

私達は悩みました。どうすればこの負の連鎖を打破することができるのか。「そうだ、中心市街地に住んで貰おう」、私達は人が来ないという部分に注目し、強制的に人を住まわせ、人が来ないという部分を打破しようと考えた訳です。「何を言ってるんだ！そんなことうまくいく訳ないじゃないか！」と言われてしまいそうですが、何と、群馬県前橋市で、こんな事例がありました。「シェアフラット馬場川」です。シェアフラット馬場川とは何かと言うと、平成25年4月、中心市街地（まちなか）を活気あふれる場所として復活させるために前橋まちなか居住有限責任事業組合を設立し、中心市街地にある空きビルを学生専用のシェアハウスとして活用している事業です。

では、シェアハウス馬場川はどのようなコンセプトで始まったのか、前橋市中心市街地の空き店舗ストックを学生シェアハウスに改修して提供、学生が商店街に住むことにより、中心市街地に若者が訪れるようになり、商店街が活気を取り戻す。空きビルやテナントなどの事業転換に可能性を見出す。買い物や交通の利便性、祭りやイベントへの参加による地域の人とのつながりも期待でき、一人暮らしにも安心。生活しやすい環境を比較的安価な居住費で提供できるため、家計への負担を減らす助けに。という訳で始まったそうです。

少し写真をご覧くださいませう。昭和44年建築のビルだそうです。1階はミシン屋さん、2階は喫茶店、3階は商事会社が入っていたそうです。それが全室南向きの開放的な外観のシェアハウスに生まれ変わったという訳です。

2階の一部については、皆が集える共有スペースとなりました。各部屋の様子です。ベッドと机は備え付けでエアコンも各部屋完備だそうです。2階と3階にはそれぞれバスルームとトイレを完備しており、3階にはランドリーコーナーがあります。

部屋の配置図です。この配置図では、201号室が空き部屋となっておりますが、本日、シェアフラット馬場川のホームページを見たところ、「全室契約になりました」とトップニュースになっておりました。今は、空き待ちということですが。

この事業をビジネスモデルに、シェアハウスを中野市で実現できないかと考えました。

中野市と前橋市の比較表です、前橋市の人口は、中野市の約8倍、面積は3倍の規模になります。高校以上の学校についても、圧倒的な差があります。今の表のとおり、中野市には学校は高校2校しかありません。中野市でシェアハウスを設置した場合、高校生をターゲットとするしかありません。学生の絶対数が少ないので範囲を中野市とするだけでは厳しいと思われます。そこで、中野市だけではなく、北信地域の学生をターゲットとします。実際に中野市以北の市町村において新潟県の高校に進学する学生もいるという話を伺いました。

仮に入居者全員が高校生だった場合を考えます。高校生は元気です。トラブルだってあるかも知れませんが。考えられるリスクを少しでも減らすために、入居前に審査をすれば良いという話ができました。しかし、私達は、ここで辛い現実に向き合います。

高校生だけでは、需要が見込まれないのではないかと。それはそうだと思います。前橋市とは規模が違うので。

そこで、中野市では特に学生と絞らずに、若者を対象とすることにしました。ターゲットの若者とは、どのような人達が考えられるでしょうか。高校生を含む学生や、農業従事者を含めた市内在住の社会人の方、外国人の方、期間限定で冬場はスキーの観光客の方に来ていただくのもありだと思います。

誰が運営するのが良いのでしょうか。前橋市の事例では有限責任事業組合（LLP）という形式をとっております。LLPとは、株式会社や有限会社と並ぶ事業体で、構成員全員が有限責任で、損益や権限の分配が自由に決められることができるなど内部自治が徹底し、構成員課税の適用を受けるという3つの特徴を兼ね備えているそうです。

では、一体、どこでやるのでしょうか。中心市街地の空き店舗、空き家、空きビルを改修し、シェアハウス化します。中野市の中心市街地には、ご覧いただくように、空いている建物があります。まちなかでシェアハウスをするメリットは何があるか、まとめました。

若者シェアハウスに若者が住むメリットは、まちなかに人が増え、商店街の売り上げも上がる。空き店舗、空き家、空きビルがなくなる。人のつながりが生まれる。仲間ができ、情報の共有ができるなどがあげられると思います。

建物の改修費用が掛かることを除けば、悪い所はほとんどないと思います。もし、若者シェアハウスが実現したら、このようなことをしてみたいと考えています。一つ目は、独自のイベントの開催です。まちなかに若者が集まるようなイベントをできたら良いと思っています。二つ目は中心市街地で行われるお祭りの運営に参加です。お祭りに参加し、地域の人と触れ合う機会を提供したいと思っています。

若者シェアハウスの入居希望者を増やすために、中心市街地のお店や、行政からサポートがあればいいかなと思います。例えば、中心市街地にある飲食店などで、入居者限定の割引サービスや、家賃の補助、実質負担の軽減。家賃の補助については、前橋市で事例がありまして、まちづくり活動月例報告書を住んでいる人に提出させ、家賃の補助を行っているそうです。まちづくり活動とは、商店街でのボランティア活動を指しているようで、中野市でも可能でないかと考えます。後は、中野市公認というネームバリューと言うことで、中野市が認めているシェアハウスなら入居希望者も安心して契約できるのではないかと考えます。

スライドも残りわずかですが、ここでシェアハウスの名前を考えたので発表します。

まちなかのふるさとと言うことで、「naka-ful」です。いかがでしょうか？

前橋の事例をモデルとし、中心市街地にシェアハウスを設置する。運営者は有限責任事業組合が考え

られる。ターゲットは若者、高校生も可とする。場所は空き店舗、空き家、空きビルとする。中心市街地で各種イベントの開催・運営をする。居住者や中心市街地にもメリットが生まれるように工夫する。名前は「naka-ful」とする。

そして、私達が目指すところはここにあります。シェアハウスに住む、仲間が増える、中野市が好きになる、中野市に住み続けたい、中野市を薦めたい、そして中野市・愛です。これを目標とします。

若者向けのシェアハウスをやります。以上です。ご清聴ありがとうございました。

コーディネーター

ありがとうございました。今、若者に人気のシェアハウスを、中野市の市街地でもやろうというアイデアで、色々な事例や課題も出させていただきました。今日の新聞にも出ていましたが、まちなかでも色々な意味でメリットが出て来るのですが、企業も共同生活を経験した人は、魅力があると言っていて、そういう体験として凄く面白いのではないかと感じました。

どなたか質問ございますか。

市民

ちょっと教えてください。さっき飲食店の割引という話が出ましたが、私の尺度だと少しわからないのですが、具体的に、いくら割引だったら魅力的か、主観的でいいので教えてください。

会員

1,000 円のが半額になれば嬉しいです。

会員

私は、モノによりますが、1,000 円のが 700 円になれば迷わず買います。

市民

わかりました。ありがとうございます。

コーディネーター

ありがとうございます。後でまとめて質問を受け付けますが、1 問だけ、忘れない内に受け付けますので、よろしくお願いします。どうもご苦労様でした。

それでは、引き続いてイベントチーム、お願いします。

6 イベント分科会（イベントチーム）プレゼン

これから、イベントチームのプレゼンテーションを始めます。

まず、イベントについて、高校生に、実際イベントってどんな感じなのか聞いて貰いました。

会員

よろしくお願いします。ほんの数人ですけど、今回のために、高校生の声を聴いてきました。高校生の声としては、「興味がない」、「行ったところで興味がわからないし、時間が勿体ない」ということで、あまり行かない。高校生との間にイベントに関して壁がある。どんなイベントだったら高校生が参加するのか。食べ物、音楽イベントがあれば楽しい。自分達が行って時間の無駄にならない、楽しいイベントがあれば、参加したいということでした。

会員

それでは、私達はイベントという一つのテーマを元に、中野市でどんなイベントを開催したら、市民の方々が来てくれるのか、また、イベントを開催する目的は何だろうと何度も話し合いをし、案を出し合いました。

ここで、お手元にある資料をご覧ください。クモの巣のようになった「アイデア」と書いてある資料ですが、これは私達の話し合いの中で出た意見をまとめたものです。ご覧のとおり多くの意見が出まして、特にイベントの目的を皆で考えた際は、やりたいイベントがたくさんあり、まとめることが難しいと実感しました。そして私達はチームで集まり、時には市役所の職員の方や、まちづくりに関わっている方からも意見を聴く中で、一つの考えに至りました。

それがこちらです。私達が楽しいと思うイベントを私達が作り上げる。ここでの私達とは市民を意味します。誰かに企画してもらってそれに参加するのではなく、まず、自分で声を上げ、仲間を集め、実現しよう。1人ではできないことで、助けを頂きたい部分がたくさんあるんですけど、まず、市民であるチームの一人一人が中野で実現したいイベントの発信者になろうと言う考えに至りました。

私達が考える具体的なイベント案を一人一人発表して行きたいと思います。

会員

私が考えるイベントは、食べ歩き街散策、春の食べ歩き桜鑑賞会、写真会、お茶会です。食べ歩き街散策とは、「まちがばらけすぎ」という意見をもう一度見直してみることで、例えば市役所の近くにクレープ屋さんがありますが、そういうお店やコンビニとかちょっとした出店を活用して、食べ歩きながらまちがばらけている中で、何があるのか、どんな楽しいところがあるのかということ、見つけて頂けたらと思います。

似ていますが、春だったら、夜桜を鑑賞しながら中野市の良い所を見つけていただく。あと、写真会は、意見交換の時の話を参考に考えました。

私達がプライベートで集まった時に、イングリッシュカフェを陣屋とかでやったらどうかと言う話が出たんですけども、そういう名前は浸透していないから受け入れてくれる人がいないのではないかといいことがありました。では、例えばイングリッシュカフェじゃなくて、お茶会という名前にして、後付けでイングリッシュを取り入れたカフェにしようということ、お茶会をプラスαでくっつけたらどうかと思いました。

会員

私が提案するイベントですが、「中野市若者会議」です。若者会議とはこれからの社会を作っていく若者が未来について考え、対話する場所です。現在、各地で開催されていますが、私も去年、小布施町若

者会議に参加し、全国から集まった100人の若者達と交流し、たくさんの刺激を貰ってきました。月に一度のこの「魅力あるまちづくり若者会議」もその一種なのですが、私がやりたいのは、中野市に関わりのある高校生から35歳までの若者、加えて市内の企業を巻き込んだ大きなイベントです。

会議では、中野をいいまちにするためのテーマに、農業、観光、子育てなど、分野ごとチームに分かれて話し合いをします。例えば、子育て分野に現役の保育士である市民が加わって貰うなど、分野のスペシャリストにアドバイザーとして入って貰えばより良い議論が生まれるのではないかと思います。

最後に、大報告会を開きまして、市民が考えたアイデアを共有する時間を設けたいと思っています。議論の場だけではなく、交流の場もその若者会議の中で作りたいと思っています。市内には4つ酒蔵がありますが、その4つの酒蔵を巡る酒造りを学ぶツアーとか、市内に有名なカメラ企業がありますので、その企業にお願いしてカメラ講座体験の時間を設けるなど、中野の地域資源を知るきっかけを作りたいと思っています。

中野市について考え、体験し、知ること。中野には多くの地域資源が眠っています。私はこのイベントによって、若者が自分の故郷に向き合う時間を作りたいと考えています。

会員

私は2点、「焼き芋大会（じゃが）」と「ジビエBBQ」をやりたいと思っています。何故かと言うと、美味しいモノを食べたい。せっかく食べるのなら、皆でワイワイ食べたいという思いがありまして、これから5月になると新ジャガが美味しい季節になってくるので、サツマイモではなくジャガイモの焼き芋大会をやって、皆で火を囲んで、色々なソースやケチャップを持ち寄って、ワイワイ食べるような交流イベントをやりたいと思ったのが一つ。

ジビエBBQは、野生の鳥や、シカやイノシシのお肉を使った料理ですが、小学生位の時に、ポタン鍋、イノシシ鍋を食べたとき、凄く美味しいと思いました。最近、シカが木の皮を食べて大変だという話を聞いたりして、美味しいモノを食べて、鳥獣被害が解決するのであれば良いことだと思い、ジビエBBQをやれたらと思いました。

これ、本気でやりたくて、私、「ワナ」の狩猟免許を取りました。この中に猟友会に入っている方はいますか。いないですね。また、知り合いの方に猟友会の方がいたら色々教えてください。

では、私達が考えるイベントを一言で表すと言うことですが、今まで私達がやりたい案について話してきました。その根底にある自分達の思いを一人一言ずつ話して言って貰いたいと思います。

会員

私は、「人とのつながり」だと思います。別に配った紙に「一つのことで多くの人を楽しめる」とあるとおり、イベントをするには、人がたくさんいなければダメだし、協力してくれる人がいないとダメだと思います。

やはり、人との繋がりでイベントを楽しくする。これが大前提と言うか、一番の大本だと思います。

会員

私は、「楽しくなきゃ、はじまらない」と言うことで、先程、若者会議を提案して、この話になるのですが、以前、中野市でハロウィンパーティーと言うイベントが開催されまして、それは子ども達が商店

街のお店を巡って、そこのお店でお菓子を貰うと言うもので、私はお手伝いとして参加させていただきました。最初は、そんなに人が来ないと思っていたのですが、500人も来まして、楽しい要素を組み入れることによって、小さなまちでも人を呼べると実感しました。なので、イベントは楽しくなければはじまらないと考えております。

会員

私は、全力の遊びだと思えます。私は今大学生で、社会人ってどんな感じなのかと思ひ、色々な人に会いに行ったり、話したりしたのですが、生き生きしている方は、仕事もしっかりやりながら、人生を楽しんでいる印象を受けました。社会人としてしっかり働くということもあつつつ、子どもころの遊び心を忘れない。大人になっても遊びたい。そればイベントの中でやって行きたいと思ひます。良く宝くじのCMで、一億円当って、一生遊んで暮らすぞみたいな話があるのですが、一億円がなくても、遊んで暮らしていくことはできると思ひます。私は遊びとしてイベントを企画して楽しんで行きたいと思ひております。

こんな熱い思ひを持った3人がイベントチームにいます。3人では物足りないし、もっと色々なことをやりたい人がいると思ひております。この場を借りてメンバー募集をしたいと考えております。配付資料の中にもアドレスを書いてありますので、もし興味を持たれた方がいらっしやいましたら、こちらの方まで連絡をお願いします。市役所も民間も学生も関係ありません。皆中野市民です。一緒に楽しいことをして行きましよう。

ご清聴ありがとうございました。

コーディネーター

ありがとうございました。人との繋がりとか、楽しみながら、全力で遊ぶ。イベントの考え方まで聴いて頂きました。こういう地域で、色々イベントを考える。ライフスタイルのような話まであり、大変奥の深い話をして頂いたと思ひます。何かご質問はありますでしょうか。

市民

誰でもいいって話ですが、私のようなお爺ちゃんでも仲間になって良いのですか。

コーディネーター

いいと思ひます。

市民

今まで生きた中で、一番楽しかったということが脳裏にあれば、ちょっと教えてください。

会員

最近、県政タウンミーティングと言うのが長野市であって、そこに参加して来たのですが、異業種の人ともフラットに話ができたと言うこと、阿部県知事もいて、隣同士で話ができた。しかもその時の話し合いは堅苦しい感じではなくて、阿部県知事のこと阿部ちゃんと呼んで、長野県のことについてど

う思う？みたいな話ができただけで、凄く楽しかった。かしこまった場でなく、フラットに長野県の将来について考えを深めて行く。こういうことは、これまで余り考えたことがなく、凄く刺激的だったと言うことで楽しいイベントだったと記憶しております。

会員

私は、昨年10月頃、東京で行われたESDと言う環境シンポジウムに出させていただきました。長野県からは松本のエクセラン高校、中野西高校だったのですが、都会や各地から来た高校生と意見交換する場がありまして、十人十色な意見があって参考になって、非常に楽しい会議でした。

会員

最近のイベントになりますが、先程の発表の中でもお話しした、小布施の若者会議ですが、そこで人との繋がりは大事であると改めて実感しました。私は大学で行政学を勉強していたのですが、社会に出て、実際に働いてみて、まちづくりをやりたいと言っている人達と関わる機会が全くありませんでした。小布施若者会議に参加したら、実際に市役所に働いていて真剣にまちづくりを考えている人や、学生と触れ合うことで、私の考えていることに共感してくれる人がいると実感できました。

この会議もそうだと思うのですが、改めて、そういう自分の仲間が見つかる場所を、イベントを通じて作りたいと思っています。

コーディネーター

よろしいですか？こういった熱い若い人達が、これからの中野を考えている。大変楽しみです。ありがとうございます。

それでは、4チーム目、人づくり・情報チームをお願いします。

7 人づくり・情報分科会（人づくり・情報チーム）プレゼンテーション

それでは発表に入ります。まず始めに、現在の中野市の状況についてお話しします。中野市には誇るべき資源が数多く存在しております。まず観光では、多くの来場者で賑わう、一本木公園のバラまつりや、全国に土びなのファンを多く持つ中野ひな市が有名です。農産物では、生産量全国一位のえのきを始めとするキノコ類、種類豊富なリンゴやブドウ等、たくさんの農産物に恵まれております。

他にも、中山晋平氏や高野辰之氏、久石譲氏の出身地と言うこともあり、音楽のまちとしても知られ、久石譲氏の娘さんである麻衣さんも中野市音楽親善アンバサダーとして、音楽を通し、中野市の魅力を発信しております。他にもまだまだ柳沢遺跡や、高梨館跡地など、多くの魅力がたくさんあります。

これらの魅力は今どのように発信されているのかと言うと、SNSのフェイスブックであったり、アンテナショップとして賑わう銀座NAGANO、皆さまお馴染みのサザエさんのオープニングテーマ、中野市のガイドブックとして発行されたKURAなど、あらゆる形で中野市のPRがされています。中野市の広報誌である広報なかの、長野県と県広報協会が主催する平成26年度長野県市町村広報コンクールの広報誌の部で広報なかの11月号が最優秀賞を受賞し、信濃毎日新聞にもその記事が掲載され、益々、注目を集めております。

しかし、様々な形で情報発信に力を入れているところではありますが、いくら中野市の魅力は素晴らし

いとアピールしていても、それだけが独り歩きをして、中野市の知名度向上に直結していない現状ではないかと感じております。

それだけでなく、小布施ブランドとして有名な小布施町や、御開帳をひかえる長野市などに囲まれた中野市は、魅力が衰えてしまうという感じが拭えないところであります。今後、中野市の魅力を外に発信して行くためには、積極的な情報収集の元、仕組みの構築、知識の習得が必要であり、発信基地となる行政、関係者、地域住民が協働し、まちづくりの情報発信の基盤、すなわち、インフラを構築することが必要だと考えます。

会員

先ほど、インフラという言葉を用いて説明しましたが、これよりインフラの意味をひも解いて行きたいと思います。

インフラと言うと、道路や水道の設備など、我々の生活に欠かせない公共設備、物理的なモノをイメージしがちですが、私達のチームでは、目に見えない、人との繋がりに着目し、人と人との繋がりを強めることが、まちづくりを实践するうえでのインフラになると考えました。

他のチームは農業体験、まちづくり、イベントなど、それぞれ具体案を考案しています。それらを実行しようとする時に、必ず必要となるのが人の力です。地域の様々な人達が繋がりを持っていれば、地域でこんなことがしたい、一緒にやりたい、協力してくれる人この指とまれと誰かが声を上げた時、マンパワーを始め、経済面や技術面、知識面など多方面からの協力を得やすくなるのではないのでしょうか。

人と人との繋がりがインフラとして構築されれば、それは中野市の一つの重要な資源となります。こうした社会や地域における人と人との結びつきの重要性を説く概念を、ソーシャルキャピタルと言います。

ソーシャルキャピタルの考え方を中野市に浸透させ、市民同士の繋がりをより強めるために、どのようなことができるか具体案を提示して行きたいと思います。

会員

ソーシャルキャピタルの考え方を浸透させ、市民同士の繋がりを強めるためには、中野市がどんなまちで、どんな素敵な資源があって、どんな人がどのような思いで暮らしているかを、まず私達が知る機会が必要です。そこで私達のチームは「まちたび」という案を考えました。「まちたび」の目的は、普段気付かない、自分だけが知る中野市の魅力を発信し、より多くの人に知って貰うことで、中野市民一人ひとりが広告塔になることを目指します。

内容ですが、自分のお勧めの市内のスポットに行き、写真を撮影し、紹介するというモノで、文字通り中野市のまちを旅します。

方法ですが、この若者会議のメンバーが、それぞれ自分の思い入れがある場所に行き、写真撮影をするという方法を取りたいと思いますが、ゆくゆくはもっと大勢の市民の方を巻き込んで実践できたらと考えております。

どのようなものが出来上がるのか、具体的にイメージしやすくするために、実際に私達のチームのメンバーでロケに行ってみました。

それでは、これから皆様を中野市の「まちたび」へご案内いたします。一緒にやって頂きたいのです

が、私が「まちたび」と言ったら、大きな声で「出発！」とお願いします。ちゃんと手も上げてください。

「まちたび！」（「出発！」）

では、私の「まちたび」からです。私が紹介する中野市のお勧めスポットは東山公園です。私はここへは、何かイヤなことがあった時に訪れて気持ちをすっきりさせていました。東山公園と言うと桜の時期をイメージする方が多いと思うのですが、私は、夏や秋にも良く訪れて、土人形資料館の駐車場から景色を眺め、石段を登って、一番上の観音堂まで行って、お参りをし、「明日からも頑張るぞ！」と気持ちをリセットさせていました。

そんな、桜の時期以外にも是非、訪れて欲しい私の大好きな場所です。では、次のお勧めスポットをお願いします。

会員

私は中野市の商店街の通りをご案内します。小さな頃から、何度も通った道で、通学路であったり、お婆ちゃんの家に行く道であり、何度も何度も通った道でも、大人になって少し立ち止まってみれば、高社山がこんなにも綺麗に見えるものかと感動しました。中野の良さは身近にも沢山あると気付いたきっかけの場所でもあります。

陣屋県庁記念館にはカフェがあって、焼きカレーがとても美味しいようなので、近々食べに行きたいと思っています。甘太郎焼きは、アンコがいっぱい入っていて、とても美味しいので、小さな頃から大好きです。こんな商店街も、たまには車から降りて、お散歩してみるのもとってもいいものです。

会員

私が紹介させていただくのは、長嶺ニュータウン近くにある七瀬双子塚古墳です。この古墳は全長約62mある前方後円墳というものです。私がこの場所をお勧めする理由は、中野市の文化財を是非、皆様に知って貰いたいからです。文化財とは歴史的価値の高い史料のことを言います。この古墳を選んだのは、中学校時代、遠足や自由研究などで何度も訪れている文化財の一つなので紹介させて頂きました。途中からの眺めも最高ですので、是非、皆、一度、七瀬双子塚古墳に足を運んでみてください。

会員

「まちたび」というモノをご紹介させて頂きました。私の感想ですが、実際、この撮影をしてみて感じたことは、それは近くにあるけど、中々行ったことがないところがあるということです。普段は通っていたけど、ちょっと角度を変えてみると、こんな景色が見られるんだ、とか、こんな風に中野って見えるんだと感じました。

私以外の3人に撮影して頂きましたが、「何で、ここを選んだの」と聞くと、思い出の場所だったり、好きな場所だったり、ふと立ち寄ってみたら良かったからという意見がありました。この「まちたび」を通して、私達のチームが考えたことは、中野のお勧めのスポット、又は魅力を再発見する企画であるということです。「まちたび」を撮影した3人は、中野という地域に対して、地域愛に繋がるのではないかと感じさせて頂きました。

また、今「まちたび」を見て頂きましたが、この画像は色々なところで活用できるのではないかと思

い、応用についてお話しさせていただきます。

先程は、若者会議の人達だけで「まちたび」をやってみようと言いましたが、やって貰うのも市民レベルまで落として、市民の方々に自分の好きな場所、お勧めスポット、思い出の場所を撮影して頂きます。それをまとめて、365日の日めくりカレンダーを中野市の住民と共に作っていきたいと考えております。このことによって、ここに出た人が、どんな人が出たのだろうと、出てくれた人を知るきっかけになると思います。

また、撮影したものを見たり、又は、自分の心境だったり、こういう人間になりたいとか、中野の魅力について、自由にプレゼンできる機会として、「なかのしゃべくりナイト」と言う企画を提案いたします。これは、何でもいいと思います。自分が思っていること、何でもいいので、話していただくことによって、この場に出て来てくれた人達が、色々な心境を聞く。そうしたら、プレゼンをしてくれた人に共感する部分が多々あると思います。そういう部分を共有する場として企画いたします。そうするとここに出てくれた人が、人と人との結びつきを持っていただけるのではないかと考えています。

会員

これまで、お話ししてきたように、中野市には土びなやバラといった観光資源、キノコ、エノキ、リンゴ、ブドウといった特産物、このような中野の資源、魅力がたくさんありますが、それらの情報を十分に発信できていない現状です。

イベントなどでこうした地域の魅力を発信して行くには、様々な立場の人が関わりを持って協力し合うことが必要です。私達は、この魅力あるまちづくり若者会議で、本当にたくさんの職業の方と知り合い、繋がりを持つことができました。

そして、今まで関わったことのない人と繋がりを持つことで、自分一人では気付くことのなかった中野市の魅力とか、課題、まちづくりに対する考え方を知ることができました。そういった知る機会をもっと多くの人に提供できたらと考案したのが、私達のチームが提示した「まちたび」です。

まずは、この若者会議のメンバーで「まちたび」を実施して、中野市のまち、人を知るところから始めてみてはいかがでしょうか。

会員

人と人とのつながり、すなわち！

全員

ソーシャルキャピタル！

会員

これを中野市の新たなインフラとして構築できれば！

会員

地域の大きな強み、そして！

会員

有効な資源となるでしょう！これで人づくり・情報チームの発表を終わります。ありがとうございます。

コーディネーター

ありがとうございます。楽しくて、面白くて非常に勉強になりましたね。

ソーシャルキャピタルは余り聞きなれない言葉だったかも知れませんが、人の繋がりを活かして、色々な物事を進めていくと、効果が上がりやすいと言う研究発表もあるようで、最近、良くこの言葉が使われていて、その言葉を有効に使って発表して頂いたと思います。

8 意見交換

コーディネーター

メンバーにはかなりの時間を掛け、練り上げ作ってもらいました。聴いて頂いた方から、せっかくでするので、色々な意見や感想を言っていただけたらと思います。

市民

お願いですが、色々なイベントに出て来る人達はお年寄りが多い。これからイベントがたくさんあると思いますが、ただ待っているのではなく、自ら出て行って貰いたい。私達がこれからの中野市を作るというふうになれば、お年寄りが安心する。

私は、色々なイベントに出るのですが、みていると参加者の多くが年配の方が中心になっている。仲間づくりを否定はしないが、私達の時代には、携帯電話がなかったから、何かするには、皆でしなければ何もできなかった、今は、一人でもできる時代。

前に出た感想や感動があるから、今日、発表ができたと思います。是非、私がお願いしたいのは、「今始めること」です。

傍聴者

今、お話し聞きまして、面白いと思いました。ただ、一つだけ加えて頂きたいことが、もう少し絞っていいのかなと。人がいっぱい来るイベントとか、多くの人に受けることを想定していますが、もう少し狭めて頂いた方がいいのではないかと感想を持ちました。

具体的に申しますと、農業ですが、課題として、農業の人が減っているという話があった通り、東京の一流大学を出て働いた方が儲かるから農業の人が減っている背景があると思うのです。そう言った部分をどうやって解決したらいいのか。農家側のメリット、来る人のメリットをもう少しこだわって頂いた方がいいかなと思います。例えば、市が認定するブランドを作れますとか、ファンクラブに入れるとか、研修生になったら、こういうメリットがありますよ、農家が参加したら、その農家にこう言ったメリットがありますよとか、考えれば良いかなと思いました。

あと、シェアハウスですが、これに関しましても、凄く良いと思ったのですが、少し加えさせていただくと、例えば、外から来る人じゃなくてもいいのかなと。市内で一人暮らしをしたい人でもいいのではないかな。先ほどソーシャルキャピタルの話がありましたが、中野の仲間になれると言うのが大きなテ

ーマだと思います。お年寄りの人達しかイベントに来ないという話がありましたが、若者でも、何かイベントをやりたいと言う人はいっぱいいると思うので、そういう人達が中に入れるような仕組み作り、さっきの祭りへも優先的に参加できますよというようなメリットがあれば、色々な人がそのシェアハウスに入ってくれるのではないかと思います。

イベントでは、食べ歩き桜鑑賞会と言う話がありましたが、もっと絞って、東京の学生と会って良かったと言う話がありましたが、それだったら、東京、北海道、沖縄の学生限定の会にするとか、そう言った意味を持たせる交流の会にしてみてもいいのかなと思う。もっと絞っても面白いと思いました。

最後のソーシャルキャピタルの話も非常に面白かったのですが、例えば、最後の日めくりカレンダーの話は、全員が自分の好きな所を持ち寄って、市のベスト10を作ると言う話もあると思います。せっかくのソーシャルキャピタルですから、この分野に関しては、その人が凄く有名だよ、詳しいよという「人のマップ」を作っても面白いかなと。専門家のマップを作ったら、ソーシャルキャピタルとして繋がって行けると思いました。

一応、こういったアイデアを加えて頂ければいいと思って、言わせて頂きました。

コーディネーター

今の、提案に対して、メンバーは何かありますか。

こういう風にプラスの方向、そして絞り込みという話もあり、色々なところから、意見を貰い、それを改善して行くことは、これからのステージで大事なところだと思うので、こういう意見を今日はたくさん貰いましょう。

先ほど、高校の校長先生がお見えになっていると聞いたので、是非、意見を頂きたいと思います。

会員在籍校校長

私は、中野市がこうした若者の声を、率先して聴こうという姿勢に非常に感銘を受けております。まず、会そのものの意義に凄くいいなと感じております。今日の様々なアイデアを聞きながら、感じていたことが、それぞれのグループが、恐らく、既存の中野市、中野市民にとって中野市の良さを再認識する意図のグループもあり、もう一つは外から来る人、特に若者を呼び込んで、中野市っていいな、行ってみたいな、住んでみたいなと思えるような企画を出そうとしようとしているグループもあると思いました。

これから人口も減って行く中で、特に地方都市は喫緊の課題であると思っております。そう言った中で、2番目の外からの若者を、中野市に呼び込むというアイデアは、これからもっと大事になると思っております。

また、イベント提案したチームと、農業を提案したチームをコラボすることができないかを感じながら聴いておりました。例えば、スポーツから連想するのは健康、農業と言えば、連想するのは食、食と健康と言うのは、これからの時代、一つのキーワードかなと思っています。そういった所に一番関心を示すのは女性であります。だから、スポーツで外から若い女性を呼び込む。例えば、食べ歩き街散策というのがありましたが、食べ歩きマラソンのようなものを企画して、そのポイントポイントで、中野市特産のリンゴジュースやキノコスープを振る舞って、中野市ってこんな美味しいモノを出すのだということを、外からの皆さんに味わって貰いながら、中野市って凄く良いモノを出すじゃないかという風に

できるとイメージ的に良いモノが発信できるのではないかと。

ネット上で出せるものは、言ってみればバーチャルなもので、直接の体験は、自分で口にしてその良さを実感できるというのが一番、効果的だと思う。色々な場所でマラソン大会をやっていて、全国から参加者が集まるので、中野の良さを全国に発信できるのではないかと、発表を聞きながら感じました。

コーディネーター

具体的で、大変参考になるご意見を頂けました。ほかにありますか。

市民

私も10年前に、行政が企画したワークショップに初めて出席しました。その時は、今日、講師の先生が言われたとおり、余りにも抽象的で総合的すぎて、「こんなことを提案します。」で終わってしまった企画でしたが、今日聴かせて頂いた内容は、恐らく全部の企画が実現可能ではないかと感じました。

1点お聞きしたいのですが、シェアハウスの発表の中に、空き店舗等の利用の話がありました。現在中野市でも60店舗程の空き店舗があるとお聞きするのですが、やはり、こう言ったことから、シェアハウスは面白いと思うのですが、シェアハウスの相場、家賃をいくら位に想定しているか、教えてください。

まちづくりチーム

中野市の相場はわかりませんが、先ほど紹介した前橋市のシェアハウスの相場は調べてあります。

私は学生時代、前橋市に住んでおまして、その時の家賃は50,000円程でした。これは前橋市では平均的な家賃だと思います。

この前橋市のシェアハウスは、6畳の部屋でしたら、家賃が33,000円、共益費が9,500円で、月額42,500円となっております。ここに前橋市から補助8,000円が出ますので、実質の負担額は34,500円となります。比較的安価な家賃だと思います。

水道代や光熱費、インターネット代も含んでいます。

市民

ありがとうございます。すぐできる企画と、やはり予算付けが必要な企画がありますね。

コーディネーター

行政の方、どなたか意見ありますか。実際に色々なことをやる上には、行政の色々なセクションの協力やサポートが必要だと思っております。

市職員

売れる農業推進室は約10年前にできた部署で、5人しか職員がいないのですが、市役所らしくないというか、自由に色々なことをやらせて頂いている部署でありまして、考え方としては、やらない理由を考えるのではなくて、色々な提案があったら、まずはできる方向で考えてみようという形でやっております。

特に中野市の農産物をPRする部署として、先ほどの農業の提案が非常に参考となりました。それと私は豊田地区に住んでいるのですが、特産振興会という団体に入っております。

この団体で豊田地区の毛野川と言う地区にある空き家を借り、今は、そこを農業体験のできる農家民泊に改造し、オープンに向け準備をしております。新しい試みなので試行錯誤しております。農業体験をどうしたら良いのか、どうやって協力者を募ったら良いのか、色々なことで悩んでおります。今日、発表を聞かせて頂いて非常に参考になったと言うこともありますし、これからも、若者会議の皆様にも、この団体でやる農業体験、農家民泊をどのように進めて行ったら良いのか、若者の皆様の自由な意見をお聞きしたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

コーディネーター

既に取り組みされている企画や、これから行う予定の企画に、知恵を出しながら、汗もかきながら、一緒に協力することにより、プロジェクトがうまく行く形に持って行ければと思っております。

今日は、たたき台の発表と、それを受けての情報交換が出来て、実りがあると思います。

9 コーディネーター講評

私の方で、4チームの発表内容を事前に見させて頂いて、簡単に整理しました。

勝手に名前を付けましたが、未来農業プロジェクトでは、荒廃地、観光、若者農業研修の話があり、まちづくりプロジェクトでは若者シェアハウスをやろうと、色々な賑やかなイベントが出てきました。ジビエ、写真会、お茶会など具体的で面白そうなイベントが出てきました。人づくり情報発信プロジェクトでは、「まちたび」というロケをして、ロケをたくさんして行くと日めくりカレンダーができ、一晩中若者で色々な話をして、そうすると新しい何かが生まれるのではないかと、前向きな意見を頂いた。

色々な意見を、これから短期的、中期的、長期的に一度選別しないといけないと考えています。プロジェクトを選定したり、絞り込み、どのように連携を取ればプロジェクトが上手く行くのかを考えなければいけないですし、この4つはオーバーラップしている部分もあり、皆で一緒に考えて一つのプロジェクトを生み出すことも有り得ると思うので、プロジェクト間の連携も考えて行かなければならない。

ここからが一番大事だと思うのですが、一度、練り直し、絞り込んだうえで、アクションを起こさなければ何も変わらない。大体、行政の計画と言うのは、計画作りまでは行くが、特に行政主導でないプロジェクトは止まってしまう。これからどうアクションに結び付けて行くかということが大事。

来年度は、具体化して、アクションに移すために、メンバー、行政、学校、商工会議所、企業などが、どう協力するのか考えて行かなければと思っています。

15人のメンバーでプロジェクトを進めてきましたが、このネットワークは、益々拡大をしていかなければならない。市内だけではなく、市外の若者、市内の企業や団体、市外の企業や団体をどう巻き込んで行けば良いのかを考える必要がある。

特に市役所には、色々な資源が集まって来ますが、今日は市職員の方も大勢参加して頂いているので、協力やサポートについて考えて頂きたいと思っております。先ほどの民泊も一つの例ですが、チームが考えた案のような企画を、既に市が考えていたが、どうしたら良いのか悩んでいるのであれば、一緒に市の企画に乗ってしまうのも一つの手ですし、実効性があると思います。

プロジェクトを行うには人の調整が必要ですが、直接参加したいと思う若者を増やす仕掛けが必要。今回集まったメンバーのように、中野市を何とかしたい！中野市のために汗をかきたい！と考えている若者を募集するという話もあるでしょうし、中野市外の人達は、こういう時代ですのでSNSを使って参加する方法もある。

このプロジェクトだったら、資金を出しても良いと思う企業があればいい。今、企業もモノを売って、サービスを提供して売上をあげ、利益を取るだけでは、企業としてはダメであるという考え方になっているので、企業が、プラスαの活動で社会貢献や地域貢献も考えている。それと上手く結び付けられたら良いと思っている。

その為にも、参加してくれる人達を探すが、これから求められると考えています。

市内の人や市外の人からアイデアは色々出るが、実際にそれを組み立てて、実践して行く人達は、中野に関係のある人だと思っています。ベースにあるのは、中野市の絆がある。信州なかのに対して思い入れのある人とのネットワーク、そういう人達の参加意欲を上手に活用させて頂いて、プロジェクトを上手く進めて行けたら良いと思っております。今年度は企画の段階で、来年度以降は、先程申し上げたとおり、アクションの段階に入っていきますので、引き続き、気を引き締めて、出たアイデアを是非活用して頂きたいと思えますし、今日の話、仲間に広げ、そして仲間を集めていただくような活動をして頂けたらと思っております。

10 市長講評

長期間に渡って、若者会議に参加して頂き、また、最後のプレゼンでたくさんのアイデアを出して頂きありがとうございます。話をまとめてしまうと、そのアイデアが潰れてしまうので、今日はアイデアを評価しないということにさせていただきます。

発表を聞いて嬉しかったのは、それぞれのグループが主体的に「取り組みます。」「やります。」という声があったことです。まさに、私はそのような声を待ってしまっていて、アイデアについても、具体化させたい、ここから少しアレンジをしたら実行できるかも知れないアイデアも沢山ございました。

堺屋太一が1985年に知価革命と言う本を書きました。その本の中で「たくさんあるモノを活用する。これは誰も文句を言いません。希少なモノを大切に使う。これも誰も文句を言いません。」。時代が変わっても、変わりないと思います。こういった形で、私達自身が、中野市の良さやあるモノ、中野市周辺にあるモノを活用して、中野市を良くして行くという思いで、次年度に繋げて頂けたらと思っております。

農業の関係で、これは私自信、毎日考えておりました、今、農業体験を通じた観光や、こちらに色々な体験のスケジュールが出ていますが、これも、誰がヘッドクォーターとして、まとめて行くのかという話。組織の問題になろうかと思えます。じっくり考えて取り組んでみたいと思っております。

シェアハウスの関係は、シェアハウスのみならず、私が今考えているのが、シェアして起業、店舗展開するところ、まちなかの活性化ができないか。先ほど、イングリッシュカフェの話がありましたが、若人達が、集うような場が欲しいと思っております。

イベントですが、私達が主体で動いて貰うことを通じて中野市を良くして頂きたいと思えますが、焼き芋大会は、個人的な感覚ですが、やりたいなと思いました。

人とのつながりですが、私が会社員時代に機関紙で出した言葉で、ヒューマンポート神奈川というタ

イトルがあります。人と人のネットワークもそうですが、どこにどんな人がいるかということ、データベースにして、仲間になって貰うと、推進力が付くのではないかと話したこともあります。

写真で色々な所を巡った企画については、市で TeachMe という Web サービスを契約しているので、それを活用できるのではと思いました。

出して頂いたたくさんの方の意見を活かして、具体的なアクションに繋げて行くこともそうですが、もう少し仲間を増やして行きたいと思っております。次年度以降もまた、若者会議に取り組んでいただこうと思っておりますので、是非、力添えをお願いします。

今年、戦って頂いた皆様は第1期生と位置付けておりまして、ここからソーシャルビジネスではないですが、中野市を良くするクリエイターが出てきてくれたら嬉しいという期待を込めまして、まとまりませんが挨拶とさせていただきます。

11 メンバーへ感謝状授与（代表者へ）

12 閉会 事務局